14 道の駅

道の駅

「道の駅」とは

目的

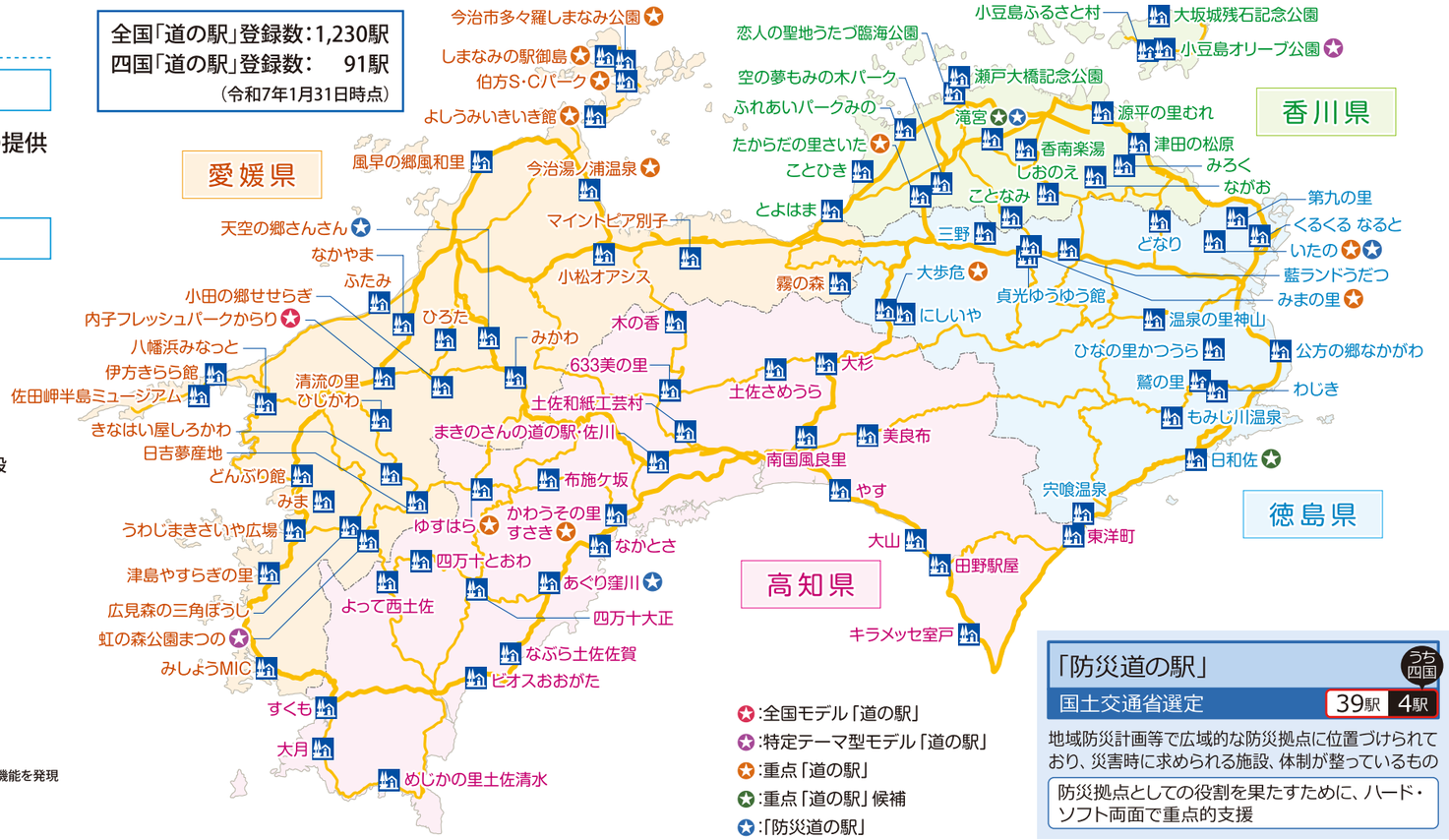
- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興や安全の確保に寄与

3つの機能

休憩機能	24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等を提供
地域連携機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

※災害時は、防災機能を発現

全国「道の駅」登録数：1,230駅
四国「道の駅」登録数：　91駅
（令和7年1月31日時点）



- ★:全国モデル「道の駅」
- ★:特定テーマ型モデル「道の駅」
- ★:重点「道の駅」
- ★:重点「道の駅」候補
- ★:「防災道の駅」

全国モデル「道の駅」（うち四国）
国土交通大臣選定　6駅　1駅
地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの
全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、さらなる機能発揮を重点支援

特定テーマ型モデル「道の駅」（うち四国）
国土交通大臣認定　13駅　2駅
特定のテーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの
全国の「道の駅」からの視察及び講師の要請に対応する等、「道の駅」の質的向上に貢献

重点「道の駅」（うち四国）
国土交通大臣選定　103駅　7駅
地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの
取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し重点支援

「防災道の駅」（うち四国）
国土交通省選定　39駅　4駅
地域防災計画等で広域的な防災拠点に位置づけられており、災害時に求められる施設、体制が整っているもの
防災拠点としての役割を果たすために、ハード・ソフト両面で重点的支援

重点「道の駅」候補（うち四国）
地方整備局長等選定　78駅　2駅
地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの
関係機関が連携し、企画検討等を支援

「道の駅」第3ステージ

Ⅰ 新たなコンセプト

第1ステージ（1993年～）	第2ステージ（2013年～）
『通過する道路利用者のサービス提供の場』	『道の駅自体が目的地』

1,160駅に展開 → **全国法人の始動**

第3ステージ（2020～2025年）

『地方創生・観光を加速する拠点』へ
＋
ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献

新たな「道の駅」ネットワーク

「2025年」に目指す3つの姿

Ⅱ「2025年」に目指す3つの姿

1.「道の駅」を世界ブランドへ

- 海外へのプロモーションやプロジェクト展開を国が推進し、「道の駅」は世界ブランドに。多くの外国人が**新たなインバウンド観光拠点**となった「道の駅」を目指し日本へ。
- 「道の駅」では、国や連絡会の支援も受けて、多言語対応やキャッシュレスなど基本サービスを用意。地域の文化体験など地域ぐるみでの受入環境も充実。周辺の「道の駅」や観光施設、風景街道などが連携して周遊観光ルートを創出。
- バス、自転車、レンタカーなど周遊の交通拠点としての役割も発揮し、日本の隅々まで旅行を喚起。多様な交通手段と地域、観光施設情報等がまとめて提供されるサービス（観光MaaS）の導入も始まり移動が活発化。

個別	多言語対応（外国人観光案内所の認定）	約110駅 開始時10% → 2025年 50%以上	約500駅	<対象駅> 観光案内所のある道の駅 約850駅
個別	キャッシュレスの導入	約500駅 開始時40% → 2025年 80%以上	約1000駅	<対象駅> 全国の道の駅 1,160駅
面的	海外や観光関係団体との連携	海外へのプロモーションの推進（開始時の認知度19%） 海外への展開（開始時5カ国から拡大） 風景街道等との連携事業の促進		現在：ベトナム、タイ、カンボジア、アルメニア、エルサルバドル 今後：インドネシアで予定

2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

- 広域的な防災機能を担うため、国等の支援を受けてハード・ソフト対策を強化した「防災道の駅」を新たに導入。地域住民や道路利用者、外国人観光客も含め、他の防災施設と連携しながら安全・安心な場を提供。
- 各「道の駅」でも、地域の防災計画に基づいて、BCPの策定、防災訓練など災害時の機能確保に向けた準備を着実に実施。
- これら「道の駅」の活動情報は、災害時に国、自治体、連絡会等でいち早く共有。関係機関の支援も受けながら、道の駅が地域の復旧・復興の拠点として貢献。

個別	地域防災 BCPの策定	約15駅 開始時3% → 2025年 100%	約500駅	<対象駅> 地域防災計画に位置づけられた道の駅 約500駅
面的	広域防災 防災道の駅	・広域的な防災拠点となる道の駅の選定 ・ハード・ソフト両面からの重点強化等		2020年～ 新たな「防災道の駅」認定制度の導入

3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

- 「道の駅」を舞台に、地域の課題解決や民間とタイアップした「地域活性化プロジェクト」が、ボランティアを含めた様々な団体との協働や、全国連絡会等が橋渡しを行いながら、全国各地で盛んに実施。
- 地域の子育てを応援する施設の併設や、高齢者の生活の足を確保するための自動運転サービスのターミナルとなるなど、あらゆる世代が「道の駅」で活躍するための環境を提供。
- 多くの学生達が、「道の駅」でインターンとして業務を経験したり、実習に訪れ、地域の特産品をいかした商品開発に取り組み、全国コンテスト優勝を目指して奮闘。

個別	子育て応援 ベビーコーナーの設置	約50駅 開始時4% → 2025年 50%以上	約600駅	<対象駅> 全国の道の駅 1,160駅
個別	地域活性化プロジェクト（全国連絡会）	新規 → 2025年 累計50件		ECやアンテナショップ等も検討
面的	大学等との連携企画の実施	開始時24校 → 2025年 50校		2020年～ 全国コンテストを開始